

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ベドラム	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ベドラム

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：PERFECT RIVAL

フレアーの幅 インチ

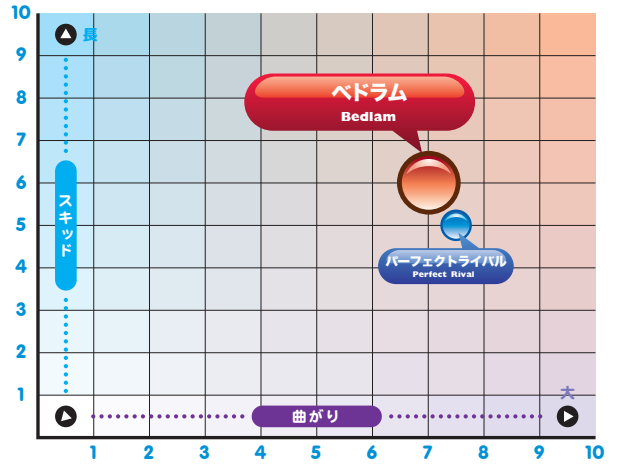
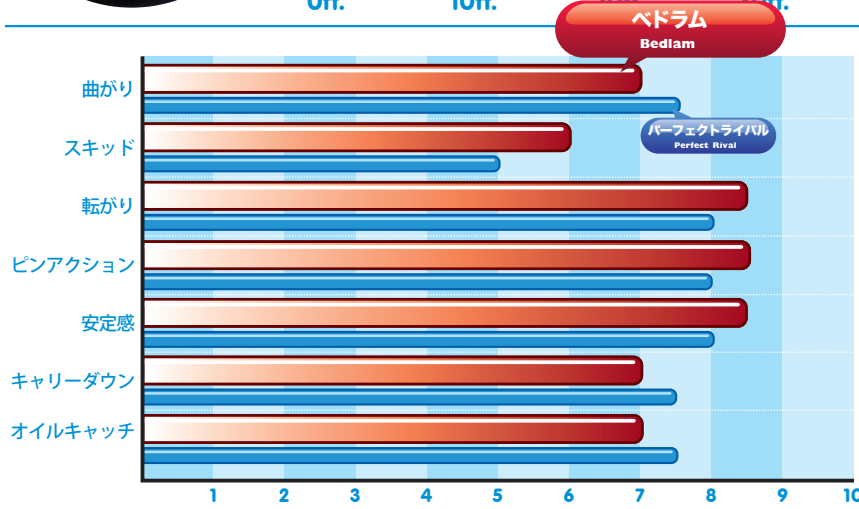
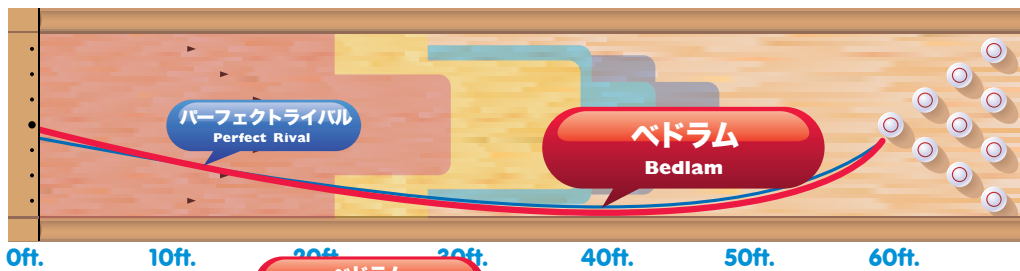
PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



ボールの評価

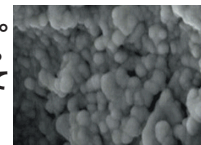
FULL SWINGと同時開発されたFull Tilt 4.0カバーストック。二分化された5.0と4.0カバーストックは、5.0はオイルに負けない持続性のある粒子の粗いキャッチ系性能。4.0は走りとドライゾーンでの反応の良いリアクションを求めた非常に粒子の細かいリアクティブ感のある性能として開発されました。

今回コロムビア社はFULL SWING同様、積極的にマスバイアスコアを導入しています。このBEDLAMも例外ではなく、新開発であるBedlam Asymmetricコアを採用。RG:2.50、△RG:0.051でもみて取れるように走りバックエンドモーションを意識してこのBEDLAMを作りあげてきています。

コロムビア発表のHOOK Rating Backendではフルスウィングが”41”に対し、このBEDLAMは”45”を誇ります。そのバックエンドモーションが強くなっていても私が投球して感じたことは、このBEDLAMは「オールラウンド性能」に感じました。粒子が細かく走る印象はあるのですが、オイルに弱いイメージは全くなく、使えるコンディションの範囲が非常に広いこと。Skid/Flipである大きく幅を取っても出し戻しできる性能がコンディションを凌駕し、尚且つ扱いやすい曲がりであることが私に「オールラウンド性能」と感じさせてくれたのでしょうか。リアクションイメージで言うと、「初代モーメントのイメージでボール2個分ぐらいスキッドする感じ」と言ったら分かりやすいでしょうか。詳細の知らされなかったコロムビア社とのテストでは初代モーメントのやや走る系と感じたのを思い出します。それだけこのBEDLAMはトータルバランスが優れており、初代モーメントに引けを取らないピンアクションも受け継がれています。このBEDLAMをレポートリーの軸と考え、その前後のパフォーマンスを求めればバランスの取れたボールチョイスができるでしょう。

Full Tilt 5.0

Full Tilt 4.0



特記事項

ボールチョイスに悩んでいる方。先での動きを強調させた”大きく切れるイメージでありながら扱いやすい”「オールラウンド性能」のBEDLAMを是非レポートリーに加えてください。